令和4年度 大田区立志茂田小学校 自己評価 報告書

令和5年3月10日

○ 本校の概要

学校経営の基本方針である「安心、安全で楽しく学べる『子どもが主役』の学校」「教職員が情熱と使命感にあふれ、互いに高め合い協働する学校」「地域、保護者から信頼され、地域の教育拠点として地域、保護者と協働して子どもたちを育む学校」を目指し、今年度のチームスローガンを、「よりよい未来へのトライ＆チャレンジ」とし、勇気をもって新しいことにトライ(試す)するとともに、困難な状況や変化にチャレンジしていく。(挑戦)成長的マインドセット（やればできる・努力を続ける子、挑戦する子を全力で応援）と親和的関係性の構築を指導の基幹に据え、児童の自尊感情を育てること、共生社会の一員としての自覚を養うことに重きを置いて日々の教育活動を行っている。一町会一学校という特長を生かし、地域の皆様、スクールサポート志茂田、PTAと連携協働し、ともに育てる教育を大切にしている。感染症対策により様々な交流が制限される中、学校ホームページで日々の児童の様子を毎日発信し、志茂田小学校に関わってくださる方々への情報提供を行っている。質の高い学びと心身の健康増進の実現に向け、教職員一丸となって教育活動を推し進めていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:「わたしはコンピューターやインターネットを使って、情報を集めて考えをまとめたり発表したりすることができる」と回答する児童が80%以上 3:「わたしはコンピューターやインターネットを使って、情報を集めて考えをまとめたり発表したりすることができる」と回答する児童が70%以上 2:「わたしはコンピューターやインターネットを使って、情報を集めて考えをまとめたり発表したりすることができる」と回答する児童が60%以上 1:「わたしはコンピューターやインターネットを使って、情報を集めて考えをまとめたり発表したりすることができる」と回答する児童が60%未満	4	92.1%の児童が「わたしはコンピューターやインターネットを使って、情報を集めて考えをまとめたり発表したりすることができる」と回答した。 一人一台に配布されたタブレットパソコンの活用がなされ、児童の有能感の向上につながったと考える。	これからの情報社会にはパソコンは必修不可欠であるが、それに伴い情報に頼りすぎず、自分でも考える能力も必要になっていく。 校長先生をはじめ、先生方が率先してスクサポを活用し、また、多方面から外部の有識者を招き、子どもたちのために必要な学習・体験の場を設けており、子どもたちも臆することなく積極的に興味を持って取り組んでいる様子が伺えます。 児童の自信と向上につながっていると感じます。 積極的な取り組みに期待します。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「先生たちは、分かりやすい授業に努め、学習指導を工夫している」と回答する児童が85%以上保護者が85%以上 3:「先生たちは、分かりやすい授業に努め、学習指導を工夫している」と回答する児童が80%以上保護者が80%以上 2:「先生たちは、分かりやすい授業に努め、学習指導を工夫している」と回答する児童が70%以上保護者が70%以上 1:「先生たちは、分かりやすい授業に努め、学習指導を工夫している」と回答する児童が70%未満保護者が70%未満	4	85%の児童及び98%の保護者が「先生たちは、分かりやすい授業に努め、学習指導を工夫している」と回答した。 学習や生活のルール・マナーの徹底と親和的関係性、支持的風土の醸成に努め、一人ひとりへのきめ細やかな指導に加え、体験的な学習、ゲストティーチャーを積極的に活用した学習に取り組んだ成果が表れていると考える。 新教科「おおたの未来づくり科」を柱にしたカリキュラムマネジメントを行い、未来を切り拓く力を育む教育活動を展開していく。	一人ひとりに合った教育により、やる気を出させることが出来れば自然に伸びる。 先生が一人ひとりにしっかりと向き合って、時には寄り添い、子どもの歩みの歩幅に合わせて指導しています。 先生方の指導に対して評価されていると評価されていると感じます。 様々なカリキュラムによる学習を更に期待します。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:「学校は、子供の自己肯定感を育む指導を工夫している」と回答する保護者が80%以上 3:「学校は、子供の自己肯定感を育む指導を工夫している」と回答する保護者が75%以上 2:「学校は、子供の自己肯定感を育む指導を工夫している」と回答する保護者が70%以上 1:「学校は、子供の自己肯定感を育む指導を工夫している」と回答する保護者が70%未満	4	保護者の95%が「学校は、子供の自己肯定感を育む指導を工夫している」と回答した。 やればできるという成長的マインドセットの育成、志茂田あったか通りの全校掲示や代表委員会主導による毎月のあったか言葉の設定など、地道な取り組みが自己肯定感の向上につながったと考える。 組織の構成人員が変わっても、規律の徹底と支持的風土の醸成の両立を目指し、いじめ0、不登校児童は0を目指していく。	道徳教育により相手を思いやる優しい子どもに。自分の考えと違う人間を排除しようとせず認められるように、子どもの頃から教育して欲しい。 年々、新たな取り組みが進められ、子どもたちの関心をひいているように感じられます。コロナ禍で実施しにくかったなかよし班での取り組みなども大きい子が小さい子の面倒をみるなど、有用性が高いを感じます。 先生方の指導に対して評価されていると感じます。 児童アンケートの④の結果が年々減っているのが気になります。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:「学校は子供たちの体力向上に取り組んでいる」と回答する保護者が85%以上 3:「学校は子供たちの体力向上に取り組んでいる」と回答する保護者が80%以上 2:「学校は子供たちの体力向上に取り組んでいる」と回答する保護者が70%以上 1:「学校は子供たちの体力向上に取り組んでいる」と回答する保護者が70%未満	4	96%の保護者が「学校は子供たちの体力向上に取り組んでいる」と回答した。 指導人員を増やしての水泳指導、駅伝大会への取組、全校体育朝会、中学校の部活動参加等、年間を通して体力向上に取り組んだことへの評価をいただいた。次年度以降、より一層子供たちの心身の健康増進に努めていく。	規則正しい生活が人間形成の基本。今の子どもには勉強することが中心で、食育の大切さと運動による体づくりと仲間作りをして欲しい。 校長先生、副校長先生がトップに立って子どもたちと一緒に走っている姿は、どんな指導にも勝ると感じ、志茂田の子はしあwくぁせだと思います。先生方の熱心な取り組みで年々レベルが上がっていると感じます。 先生方が子どもたちの心身の健康増進に努めていると感じます。 継続した取り組みをお願いします。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:「先生たちは、わかりやすくていねいに授業を教えてくれます」と回答する児童が85%以上「「子供は、授業の内容がよく分かっている」と回答する保護者が85%以上 3:「私は授業の内容がよくわかります」と回答する児童が80%以上「「子供は、授業の内容がよく分かっている」と回答する保護者が80%以上 2:「私は授業の内容がよくわかります」と回答する児童が70%以上「「子供は、授業の内容がよく分かっている」と回答する保護者が70%以上 1:「私は授業の内容がよくわかります」と回答する児童が70%未満「「子供は、授業の内容がよく分かっている」と回答する保護者が70%未満	4	85%の児童が「先生たちは、わかりやすくていねいに授業を教えてくれます」と回答し、92%の保護者が「「子供は、授業の内容がよく分かっている」と回答した。 教員の日常的な相互授業観察や主幹教諭や主任教諭による若手指導、主体的に行うOJTの成果が授業力向上につながったと言える。 現状維持は停滞、衰退の始まりを合言葉に、子どもたち一人一人がより一層主体的に学習に取り組むための日常的な授業改善に取り組む。	先生の教育に対する情熱で分かりやすい授業が出来ていることは評価したい。 先生方が上下関係なく、協力し合いながら楽しく切磋琢磨して一生懸命に取り組んでいる様子が、子どもたちのやる気の源になっていると感じます。 先生方の指導を評価していると感じます。 麻衣西忙しいと思いますが、引き続きよろしくお願いします。
プラン6 学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:「学校はホームページを適宜更新し、教育活動を積極的に発信している」と回答する保護者が90%以上「学校は、地域の力を積極的に活用し、地域と連携した教育活動をしている」と回答する保護者が90%以上 3:「学校はホームページを適宜更新し、教育活動を積極的に発信している」と回答する保護者が80%以上「学校は、地域の力を積極的に活用し、地域と連携した教育活動をしている」と回答する保護者が80%以上 2:「学校はホームページを適宜更新し、教育活動を積極的に発信している」と回答する保護者が70%以上「学校は、地域の力を積極的に活用し、地域と連携した教育活動をしている」と回答する保護者が70%以上 1:「学校はホームページを適宜更新し、教育活動を積極的に発信している」と回答する保護者が70%未満「学校は、地域の力を積極的に活用し、地域と連携した教育活動をしている」と回答する保護者が70%未満	4	98%の保護者が「学校はホームページを適宜更新し、教育活動を積極的に発信している」と回答し、96%の保護者が「学校は、地域の力を積極的に活用し、地域と連携した教育活動をしている」と回答した。 子どもたちの様子を毎日ホームページで紹介し、行事の際には特集を組むなど情報発信に務めたことへの高い評価であると考えている。 地域教育連絡協議会、学校支援本部、PTA、町会が常に協力連携体制を築いていることへの評価だと考える。 今後も引き続き、みんなで育てる志茂田小学校であり続ける努力を惜しまない。	西六郷一丁目町会も、これからも学校、PTAと一緒に志茂田小学校の子供たちを見守り、そして育てていきたいと考えております。 学校に行く機会が少ない私たちには、ホームページにより子どもたちの毎日の活動状態、生活の様子がわかり理解につながった。 親児の会単独でのイベントが開催出来るように配慮していただきたい。学校やPTAで出来ないことを、子どもたちに体験させるのが会の本来像です。 ホームページでの学校行事の紹介は、地域の皆さんが学校内で行うボランティアサポーター活動を行っていく際でも活用できて重宝しております。また、私々活動の紹介を行っていただき、活動がしやすくなり沢山の方々に知ってもらえる機会となり感謝しています。 保護者が評価していると感じます。 微力ながら私も努力します。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。